

山形県「未来に伝える山形の宝」事業

= うつくしい

第4号

うづぐすえ

平成29年3月

発行：東北文教大学 地域連携

ボランティアセンター

東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会

沃野が広がる南山形 ～氷河期から刻む2万年の歴史と恵の里～

《平成28年度 実践報告》

※ 表紙写真：西側遠方に南山形地区をのぞむ

実践プラン1 「2万年の歩みを刻む南山形を知る・楽しむ」活動

周遊コース策定！ 「氷河期の埋没林」、「片谷地の一本スギ」の看板設置！！

本実践プランでは、学生・地域の方々・教職員が南山形地区の自然と歴史を巡り、①自然・茂吉コース、②いにしへの郷コース、③歴史コースの3つの周遊コースの策定を行いました。また、その周遊コースに策定した文化財（文化資源）の「氷河期の埋没林」と「片谷地の一本スギ」には、看板を製作・設置し、文化財（文化資源）の保存・整備に努めました。ぜひ、近くを通りかかった際は看板をご覧くださいただければ幸いに存じます。

今後は、市外・県外の方々に、南山形地区の自然と歴史を巡っていただくための広報活動を行うとともに、今回策定した周遊コースのガイドスタッフを養成し、市外・県外の方々と南山形地区の方々が文化財（文化資源）に対する価値観や地域振興の理念を共有しながら交流を深められるように努めていく予定です。次年度も引き続き、新たな看板を設置する予定です。



実践プラン2 「南山形地区ガイドマップ」作成

「自然・歴史 まるぐマップ」完成！

表面



裏面



本実践プランでは、南山形地区のガイドマップ作成に取り掛かり、今年度の活動の成果として「自然・歴史 まるぐマップ」が完成しました。「まるぐ」という言葉は「南山形ことば」で「束ねる」という意味があります。その言葉の意味を活用させていただき、自然・歴史・人とのつながりを束ねたものとして、まるぐマップという名称をつけました。このマップは、南山形地区の自然と歴史を巡る周遊コースを紹介しています。学生・地域の方々・教職員が実際に足を運び、話し合いを重ねて「自然・茂吉コース」、「いにしへの郷コース」、「歴史コース」の3つの周遊コースを策定し、第1弾のマップを作成しました。表面には、各コースのスポットの概要を記し、裏面には、南山形の地図を掲載しました。市外や県外の方々にも南山形の魅力を発信するとともに、南山形在住の方々も地域の魅力を再発見していただく機会となりましたら幸いです。

また、次年度はマップがより活用しやすいものになるよう、改良を重ねていく予定です。ご意見、ご要望、アイデア等ございましたら、ぜひお声をお聞かせ願います。

まるぐマップが完成するまで・・・



■ コース巡り

各スポットを巡り、マップに使用する写真を撮影しに行きました。



■ コース策定、マップ作成

地域の方々にアイデアをいただきながら、何度も何度も話し合いを重ねました。



■ マップ完成！

ついに・・・、第1弾、「自然・歴史 まるぐマップ」が完成しました！

DVD 「おもしろえがらみでけろず〜南山形文化探訪」完成！

平成28年度、実践プラン3・DVD班は、地域の方々と学生、教員が話し合いを重ね、文化編のDVDを作成することを目標に、様々な所に足を運び、取材しました。このDVDには、江戸時代から始まったといわれる契約組や新嘗祭、ゆわゆわ祭など南山形地区に現在も残る「文化」が収録されています。タイトルの一部である「おもしろえがらみでけろず〜」は、より多くの方々にこのDVDを観てほしいという思いから学生たちが案を出し合い、『南山形ことば』*を参考に考えたものです。作成したDVDは、山形市内のコミュニティセンターや小学校、中学校など公共機関に配付させていただき、たくさんの方たちに観ていただけるよう準備を進めていく予定です。そして、平成29年度の実践プラン3・DVD班の活動は、南山形地区の「歴史」をテーマに、資料の収集および聞き取り調査などを行っていく予定です。文化編と同様、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

*加藤大鶴編（2016）『「南山形ことば」調査報告書』東北文教大学地域連携ボランティアセンター・南山形コミュニティセンター

表面



裏面



DVD作成過程



各地取材の様子



↑ ナレーション収録の様子

実践プラン4 南山形地区再発見の「講座」開設

6月から10月まで、毎月1回のペースで全5回の講座を開催致しました。各講座の受講者数については以下の通りです。

【受講者数一覧】

第1回	「南山形地区と方言」	48名
第2回	「南山形地区の考古遺跡」	58名
第3回	「氷河期の埋没林」	38名
第4回	「羽州街道の歴史」	64名
第5回	「南山形地区の民俗」	53名
合計		261名

第1回 「南山形地区と方言」

■ 加藤大鶴先生（東北文教大学短期大学部准教授）

6月11日（土）、南山形の方言を通して、日本語の歴史と方言の分布や言葉の変化について興味深いお話をいただきました。



第2回 「南山形地区の考古遺跡」

■ 茨木光裕先生（山形市文化財保護委員）

7月17日（日）、南山形地区にある数多くの遺跡と、そこから発見された数々の遺物について、地元の研究者ならではの詳細なご講演をしていただきました。



第3回 「氷河期の埋没林」

■ 山野井徹先生（山形大学名誉教授）

8月21日（日）、今回の講座は唯一実地見学を伴いました。2万年も前の埋没林が、間近になにげなく存在することに驚きと感動を覚えました。



第4回 「羽州街道の歴史」

■ 片桐繁雄先生（郷土史研究家）

9月24日（土）、羽州街道の始まりと変遷、特に明治初期の早坂新道・栗子新道の改修を通して、三島初代県令にも思いを寄せた熱い講演をしていただきました。



第5回 「南山形地区の民俗」

■ 佐藤晃先生（東北文教大学短期大学部）

10月16日（日）、総合文化学科の授業において行われた、南山形地区の方々への聞き取り調査を基に、人生儀礼・年中行事等について大変わかりやすいお話をいただきました。



◆ 心より感謝申し上げます・・・

毎回の講座とも、大変に充実したものとなりました。講師の先生方はもちろん、受講者の方々の熱心さには頭が下がりました。特に講演後の質疑応答においては、その数の多さもさることながら、受講者の皆さんの知識の深さには驚かされました。また、毎回多くの方々に受講していただき、担当者にとっては喜ばしい限りでした。ただ、第3回講座ではバスの関係もあり、何名かの方々には申し込みいただいたにもかかわらずお断りせざるを得ませんでした。大変申し訳ありませんでした。

次年度につきましても、地域の皆様の興味関心にお答えすべく、より充実した講座の開催を目指していく所存です。

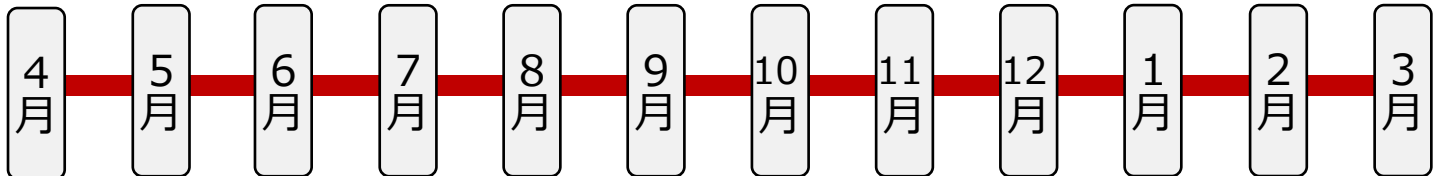
実践プラン5 「谷柏田植踊」(20数年中断中)の復活・継承運動

1年間の活動

7月ごろから、谷柏田植踊の復活に向けて具体的に始動し、1週間に1度大学や公民館に集まり、歌・太鼓・踊りの練習に励みました。

東北文教大学祭にて、谷柏田植踊復活し、初お披露目となりました。その後も様々な会にお声かけをいただき、実演させていただきました。

10月 9日 東北文教大学大学祭
10月15日 村山民俗学会レセプションパーティー
10月30日 南山形地区文化祭



第41回 民俗芸能講演会に出演

平成29年2月11日（土）、アズ七日町 山形市中央公民館ホールにて、山形市民民俗芸能連合保存会主催の第41回民俗芸能講演会が行われ、特別出演団体として、谷柏田植踊保存会が招待され、地域の方々と本学生が参加しました。今回は本学大学祭でお披露目した「お正月」の演目にさらに口上を付け加えて披露させていただき、初の大舞台での発表となりました。また、本団体以外にも山形大黒舞保存会、山家田植踊保存会、蔵王芸能保存会、谷柏田植踊保存会、西山形田植踊保存会、南山形スポーツ民舞愛好会の全6団体が参加し、各地域の特色ある民俗芸能が華やかに披露されました。



— 今後の取り組み —

約20年ぶりに復活した谷柏田植踊が継承できるよう、東北文教大生による民俗芸能サークル『舞』を発足します。次年度は、「お正月」以外の他の演目にも挑戦し、復活・継承活動に取り組んでいきたいと思っています。そして今後も谷柏田植踊を通して、地域の方々とのかかわりを大切にしていきたいと思っていますので、これからも温かいご支援のほどよろしくお願い致します。

今回も「うづぐすえ」第4号をご覧くださいありがとうございました。次年度も本プロジェクトの活動内容や南山形のうづぐすえ～な情報をお届けしていきたいと思っています。また、本プロジェクトのHPを作成いたしましたので、PCやスマートフォンからも閲覧することが可能となりました。本学HPからもリンク可能です。 URL : <http://uzugusue.netj.jp/>

●事務局連絡先

〒990-2316 山形県山形市片谷地515
東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会
東北文教大学「未来に伝える山形の宝」事務局
TEL : 023-688-2298